

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2471000253		
法人名	長茂会		
事業所名	グループホーム わらべ		
所在地	三重県尾鷲市大字南浦字古里の上4689-1		
自己評価作成日	平成 23年 8月 16日	評価結果市町提出日	平成 23年 10月 18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokuhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2471000253&SCD=320&PCD=24
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 23年 9月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族または知人の方が気軽に面会出来る雰囲気作りを大切に、常に笑顔の絶えない明るい環境の中で生活できるよう心掛けている。また、尾鷲湾を眼下に望む周りの自然を生かし、四季折々の景色を楽しみながら、自然が身近にある生活感を取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

風光明媚な尾鷲湾を眼下に望み、海の青と木立ちの緑に抱かれているような恵まれた自然環境に位置しているグループホームである。ショートステイを併設した明るい色調の建物はゆったりとしており優しい雰囲気を醸し出している。認知症介護の深い知識と豊富な現場経験を持ち、利用者・職員に全幅の信頼のある施設長のもと基本理念『自分の親として』の心を共有し、その人の尊厳を守り、自己決定に基づいた暮らしの支援を行っている。「ここからの眺めが最高よ！毎朝、朝日に感謝して手を合わせるの」と自室に招待してくださった利用者を見守る職員の眼差しは優しく穏やかであった。家族からも感謝の声が多く届いている笑い声の絶えない、心安らげる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分の親(かけがえのない人)として」の心を常に念頭におき、利用者の安全に気をつけ、利用者を中心にサービスの向上を図り、安心して生活できるよう心がけている。	法人設立時からのシンプルな理念『自分の親として』の心を大切にして、毎日の申し送り時や全職員ミーティングなどで共有し、地域密着型サービスの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や祭りへの参加、当事業所への慰問などを通じ交流を図っている。 今年度より地域清掃のボランティアを行っている。	法人全体で開催する夏祭りに地域の方々への参加がある。地域のお祭りにみんなで参加したり、福祉センター・銀行ロビーに趣味の作品を展示し、利用者一人ひとりが地域の一員として日常的に交流している。本年から国道(42号線)のごみ拾いを行い事業所自体も地域の一員として交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体で介護研修や地域の中学生の体験学習、地域の介護者対象の介護教室などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じ利用者やサービスの結果や予定を報告し、サービス以外にも防災や地域の情報など意見交流を行い利用者がより良いサービスを受けられるよう思案している。	2ヶ月に1回開催している。行事報告だけではなく、メンバーから地域の情報などの意見を出してもらい、それらをサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市はもちろん地域包括支援センターや民生委員の方々などに連絡をとり、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当者には施設整備などの相談に乗ってもらっている。市の新任研修や行事への参加などで、日常的に協力関係を築くよう努めている。また運営推進会議後の時間に事業所内を見てもらい、情報を共有するよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を毎年4月に発足し身体拘束等の排除マニュアルを作成し共有している。	施設長をリーダーとして毎年4月に『グループホーム・わらべ身体拘束廃止委員会』を設置している。本年は「一人ひとりの身体状況の把握と適切な対応・身体拘束廃止に向けての共通認識とチームワーク・事故防止の為の環境作り」を主な取り組み項目としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待は勿論、言葉による精神的虐待についても、職員同士が注意しつつ防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用されている方は見えないが、研修や勉強会などへの参加を通じて必要ならば、活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、家族、親族の方々と十分な説明を行い、理解納得をさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族等の意見や要望は、普段の生活利用者の会話の中や、面会や電話などで取り上げ、また意見箱を玄関に設置している。運営推進会議などで報告し反映している。	家族の訪問時に、担当者や職員に何でも話してもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見や要望はサービスの質の向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日の申し送りにおいて意見や提案を交わし運営に反映させている。何でも気軽に記入出来る申し送りノートも作成している。	代表者会議(第3金曜日の3時~4時)や申し送り時に職員の意見や提案・要望を聞き、運営に反映させている。申し送りノートを活用して、全職員が意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間でのアイデアや提案を代表者会議で検討することによりより良い環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人内の研修は勿論、研修を受ける機会があればできる範囲で参加し、又、職員間で共有し格差が生まれないよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への参加や、同じ地域の同業者への、施設見学受け入れを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査や面接にてできる限り多くの要望や情報を聴き入れコミュニケーションを取るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のケアも考えながら、家族の要望を取り入れ、多くの情報を共有することによってお互いの信頼関係を深めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、ケアマネジャーを交えた話し合いの場を設け、必要なサービスの提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念の「自分の親として」の心を常に念頭におき、本人が気兼ねなく係われる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などに参加していただいたり、定期的な近況報告だけでなく、面会時の意見交換や必要に応じた連絡を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる範囲で、馴染みの場所へ行ったり、馴染みの人々を訪問したりして、関係を継続している。	地域の友人や知人の訪問を支援したり、家族が訪問しやすい雰囲気づくりを工夫し、家族の絆を大切にしている。また行きつけの美容院やスーパーなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その季節に合った風景や行事を見に皆で行き、菜園で収穫した野菜を、皆で調理して食卓に並べるなど、共同生活を楽しくして頂けるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの連絡、又、病院や施設からの相談においては、その都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まず本人の意思を尊重し、できる限りの希望を取り入れゆとりのある介護を心がけるよう努めている。	お気に入りのソファでゆったりとした方、一人で散歩したい方など、利用者一人ひとりの希望や思いに添った支援に努めている。	本人の意思を尊重して、ゆとりのある暮らしの支援を行っている事業所であるが、本人が自分らしく暮らし続けることをチームで支えるための共通のツールとして、センター方式のシート1枚からでも気楽に使用されることが期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査によるアセスメント以外にも、日々の暮らしの中で本人はもちろん面会に来られた知人、友人、親族の方々からの情報も多く得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムの把握はもとより、その人らしい日々の生活を支援できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の少しの変化も把握し素早い情報の伝達や対応をし話し合い介護計画を作成している。	家族・本人の意見を入れて現状に即した介護計画を作成し、随時の見直しや定期的に見直している。モニタリング実践記録票を作成し、3ヶ月ごとにモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別の記録を残すことにより、それをもとに気づいた事や改善方法などを話し合い実行している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	美容院や自宅、病院への送迎及び付添いや自然に囲まれた環境を十分に活用し体で四季を感じとれる様、散歩やドライブを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署員立ち会いの防災訓練や老人会や各ボランティアによる慰問、運営推進会議による地域の方々との意見交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に応じた医療機関のかかりつけ医や協力医療機関を利用し、適切な医療を受けられるよう支援している。	家族・本人の希望を大切にして、医療機関のかかりつけ医や法人内の診療所の受診を支援し、利用者一人ひとりが適切な医療を受けられるように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人診療所より、週に1回往診があり、併設の看護婦からアドバイスを貰うことで、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と情報交換を怠らず、利用者が寂しい気持ちにならないよう頻繁に見舞いに行き、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	あらかじめ本人や家族の意向を聞き、職員全員が方針を共有し、定期連絡にくわえ、適宜連絡を家族に行っている。	看取りは原則行わない方針であるが、母体法人の診療所と相談しながら本人・家族が困らないように支援している。法人内に特養が2ヶ所あるので入居時に申込書を記載してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故緊急時の対応マニュアルを作成し皆で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の防災訓練に伴い、消防署立ち会いの避難訓練や消火訓練、地域合同、法人合同の防災訓練を行っている。	月1回の火災・地震・夜間など、様々な災害を想定して防災訓練を実施している。年2回消防署立ち会いの避難・消火訓練も行っている。ガス会社や地域の方にも訓練に参加・協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライバシー確保のため、失敗や異常行動の際には大声を出さず、さりげないケアを心がけている。	利用者一人ひとりの気持ちを大切にして無理強いしないケアを常に心がけている。語調や言葉かけが利用者の誇りやプライバシーを傷つけることが無いように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の選択肢を減らしてしまうような質問などは避け、出来るだけ本人の意思を尊重した生活を送っていただけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、本人の意思を尊重し、買い物、外出、衣類、整容等希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の服装や化粧はもちろん、地域の理容店が毎月来所しており、利用して頂く事が出来る。また、希望があれば、馴染みの美容院まで送迎付き添いを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食を複数献立にし選択メニューを導入している。菜園の収穫時期には、漬物など昔ながらの1品を作るなど、本人の意思を尊重しつつ出来る範囲で準備や片づけをいただいている。	献立を利用者に解りやすく掲示している。朝食のパンと御飯、昼食を複数献立にして選択メニューを導入している。おやつは蒸しパン・ヨーグルト・ゼンざいなどを一緒に作り、食事が楽しみなものになるように工夫支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューに関しては栄養士が作成し、それを元に職員が本人にあった形状にしている。また、自分で水分摂取が出来ない方などには定期的に水分補給を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前のうがいや食後の歯磨きを推進しており見守り介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけをトイレ誘導を行い便器に座って気持ちよく排泄できるように支援を行っている。	排泄チェック表を参考にして一人ひとりの排泄パターンを把握して、さりげない誘導でトイレの排泄を大切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便履歴を確認しつつ、水分量の調整や場合によっては便秘薬などにて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴が出来るように声かけを行っている。	浴室は外気が入る窓があり、ゆったりと入浴できるつくりである。熊野のヒノキ・ゆず・菖蒲・みかんの皮などで入浴を楽しめるように工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者により安眠、休息の時間にばらつきがあり、眠れない利用者に対しては、なるべく眠剤に頼ることなくお茶を飲みながらお話をするなどして支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の服薬説明書をファイリングし職員がいつでも情報を共有出来る様になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	配膳や掃除・洗濯など、それぞれ得意な事を、出来る範囲で行って頂き、カラオケの好きな方、園芸の好きな方など、その人に合った楽しみを取り入れるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自然に囲まれた環境を活かして、普段から散歩はよく行っている。また、季節の花の観賞や回転ずしなどの食事会にも出来る範囲で、ドライブをかねて出かけていただけるように支援している。	隣接した農園での野菜作り・季節の花の水やりや近隣への散歩は日常的に行っている。散歩時のイタドリ・タラの芽やタケノコ堀りは楽しみごとになっている。ドライブや外食など、希望を把握して出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、家族と相談したうえで金額を決め、所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルには出来る限り季節の草花などを置き、四季を感じていただけるよう努めている。又、会話のトーンやテレビの音量、カーテンの開閉などにも配慮している。	季節の花が飾られた共有スペースは明るく優しい風が流れ、安らぎの空間になっている。廊下もゆったりしており、随所に生活感や季節感を取り入れて居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチ・ガーデンテーブルセットなどを各所に設置し、利用者ごとにお気に入りのスペースがあり、くつろがれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やなじみのものを持ち込まれている方も多く、本人や家族の希望にそった配置を心掛けている。	各居室から尾鷲湾の景色が広く望め、ベランダに自由に出入りできるとも開放的な空間になっている。また居心地よく過ごせるように利用者一人ひとりの馴染みの筆筒やいすが置かれ、安心して過ごせるような工夫や配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の能力に合わせ居室からトイレや食堂までの距離や居室内での家具の配置など、利用者と話し合い自立した生活が送れるように工夫している。		